

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援わおん		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<b>子どもの高い安心感と支援全体への満足度</b> 子どもが安心して楽しく通所できており、職員の笑顔や手厚い関わりへの感謝の声が多く見られた。	<b>十分な職員配置と充実した活動プログラムの立案</b> パーティションを撤去し広い活動空間を確保。月ごとのイベントに合わせた多彩な活動を2名体制で企画している。	<b>とりくみの狙い・様子・変化などの伝達</b> 保護者の方に取り組み内容や課題と、それによる変化を理解してもらえるよう、お話の機会を確保する。
2	<b>多職種による専門的視点からの評価・支援</b> こまめな面談・具体的なアドバイス・多職種によるそれぞれの専門的支援に肯定的意見が多く見られた。	<b>多様なアセスメントと職員間共有</b> 観察・質問紙・保護者聴取を組み合わせ評価し、ケース会議や資料回覧で職員全員が計画を把握している。	<b>計画を日常的に意識できる仕組みづくり</b> 面談時だけでなく、日常の連絡や記録の中でも計画内容を意識・共有できる工夫を取り入れる。
3	<b>保護者との相談体制の確保</b> 面談での具体的なアドバイスに対して肯定的な意見が多く寄せられた。	<b>柔軟な面談対応</b> 定期的な参観・面談に加え、必要に応じて追加の面談時間を柔軟に確保している。	<b>参観機会の拡充と個別伝達の仕組みの整備</b> お迎え時の伝達内容を充実させるとともに参観頻度を増やし、保護者が子どもの成長をより実感できる機会を広げる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<b>保護者・家族向け支援プログラムの不足</b> 保護者会や家族支援研修の実施頻度が少なく、保護者同士の交流や知識などを獲得できる機会が十分に設けられていない	<b>環境整備・全体的な活動の再検討に伴う負担増</b> 環境や活動の流れなど、一つ一つを再検討し変更することで業務への負担が増し、保護者会などに時間を費やすことが難しくなった	<b>年複数回の保護者会・研修と図書貸出の実施</b> 保護者会・研修を計画的に複数回開催し、図書貸出も活用しながら保護者と支援者が共に学び合える関係を築く
2	<b>日々の連絡・報告の不足</b> 活動後の様子の伝達や、怪我・リスクの共有・伝達に不備があった	<b>活動中の情報共有態勢の不備</b> 活動中に職員間による情報共有や伝達事項の共有が確保できなかった	<b>伝達のための共有リスト作成</b> 共有漏れのないよう、リスト化して必ず確認し、具体的な報告を都度行う
3	<b>地域・交流や所属園との交流機会の不足</b> 地域の方や、利用児が所属している園との交流、連携をとる機会が少なかった	<b>連携体制の未統一</b> 事業所としてどのように連携をとるかの体制が統一されていなかった	<b>連携体制の整備と周知</b> 電話での相談・事業所内相談の他、訪問による連携などの体制を整え、保護者や相談支援事業所、所属園への周知を行う